

明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。

神戸商工会議所では、昨秋に議員改選を行い、私が続任し会頭に選任され、2期目の新体制をスタートいたしました。自身の信条である「行動」を大切に、神戸経済の将来のために全力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

今、わが国経済は、長期にわたる低成長・コストカット型経済から脱却し、持続的な賃上げと活発な投資による成長型経済へ移行する重要な転換期を迎えています。

一方、足元では、円安を起点とする物価高や、生産年齢人口の減少に伴う人手不足が企業経営に大きな影響を及ぼし、さらに貿易摩擦や地政学的リスクにより世界経済の不確実性が一段と高まるなど先行き不透明な状況にあります。

神戸商工会議所は、こうした課題に対応しながら、神戸のまちの魅力と経済を高みへ押し上げるべく、次の3つの分野に重点を置き、活動を進めてまいります。

一つ目は「中小企業・小規模事業者の活力強化」です。

中小企業が元気でなければ、地域経済の活性化はありえません。物価高や人手不足など経営に悪影響を及ぼす要素が増える中、困窮する中小企業の経営を支えるため、資金繰り支援などの経営相談をはじめ、価格転嫁や取引適正化の推進、事業承継・再生を含めた総合的な経営サポート事業に注力します。

また、成長意欲を持ち、新たな挑戦や変革に取り組む企業を最大限サポートすべく、ビジネスマッチングの機会提供やオープンファクトリーの活性化に力を入れ、地元企業の販路拡大や魅力発信、人材確保の支援に努めてまいります。

神戸だけでなく、兵庫県商工会議所連合会会頭の立場においても各地域と連携して、こうした課題対応に取り組めます。

二つ目は「地域経済の活力強化」です。

人口減少が続く中、この神戸の地を活性化させるには、交流人口を拡大し、滞在型国際観光都市を目指すことが求められます。そのためには、神戸空港の国際化を最大のチャンスと捉え、国内外の人々に神戸を訪れてもらい、滞在してもらうことを企画し、実行することが必要です。特に、観光、ビジネス、MICE、催しの4つが重要と考えます。

まず、観光においては、神戸を中心とした広域での連携が不可欠です。神戸独自の観光コンテンツに加えて、神戸より西側の地域の魅力もあわせて発信し、広域周遊型の誘客促進に取り組んでまいります。

加えて、神戸空港を起点にビジネス交流を一層促進させていくことも期待されます。大阪・関西万博を契機につながりを深めた国内外の就航都市との交流を一過性に終わらせず、継続・進化させていくことで、販路拡大や企業間連携などビジネスチャンスをもさらに拡大できるものと私は考えます。

就航都市とともに、相互の地域の企業ニーズを把握しながら、継続的なビジネス交流につなげていくための仕掛けを検討し、実施してまいります。

MICE誘致競争力の維持・強化も大切なテーマです。国際会議や展示会は、地域への経済波及効果が大きく、特に、医療系の学会に強みを持つ神戸においては、医療産業都市との相乗効果を高める意味でも、神戸での議論や交流を活性化させることが重要です。

今年度から神戸市を中心に、コンベンションセンターリニューアルに向けた検討が始まっておりますが、商工会議所とともに具体策を検討し、その実現を後押ししてまいります。

また、神戸には、神戸ルミナリエ、神戸まつりなど多くの集客力のあるイベントがありますが、私は、これらと共存しつつ、集客力がある新しい催しが必要ではないかと考えます。

その実現には、商工会議所とは別の枠組みで、広く経済界や行政・市民から共感を得ることが必要となりますが、神戸固有の文化の発信や新ビジネス創出にもつながるような企画づくりに、私自身努めてまいりたいと思います。

地域経済全体を底上げする上では、従来の延長線上ではなく、新たな産業やイノベーションを興していく、いわゆる創造的復興の理念に通底する取り組みを進めていかねばなりません。

その一つは1998年以来進展してきた医療産業都市関連のビジネスです。今後は医療関連に捉われず、バイオものづくりや新素材・脱炭素など新分野の強みを活かし、産官学連携のもと、特色ある企業を誘致・育成してまいります。

スタートアップを創出し、地元企業との共創をさらに強化していくことも重要です。新規事業やイノベーション関連の担当者が集う“神戸イノベーション・コ

ミュニティ”を中心に、連携・協業などの成果を生み出すとともに、スタートアップと親和性の高いデジタル化やAI活用の取り組み支援も強化してまいります。

そして三つ目は、これらの取り組みを実行し、さらに将来の成長につなげていくための「一歩先んじた政策提言」です。

商工会議所の会員企業の声を集結し、将来の神戸経済にとって必要な取り組みや都市機能は何かを真摯に考え、政策提言活動を実行してまいります。

その思いを強くした契機は、昨年1月、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、震災当時を改めて振り返ったことにあります。

震災当時の先人達は、復興に全力を注ぐと同時に、創造的復興の理念のもと、神戸空港の建設や医療産業都市構想を推し進めるなど、神戸経済の将来のために責任ある行動をとってこられました。その先人達の信念があったからこそ、今の神戸経済の発展の基盤があると感じています。

当時と今とでは環境が異なるものの、将来のために責任を果たすという使命感は、我々経済人がいつの時代も必ず持つべきものと私は考えます。

神戸商工会議所は、3年後の2028年10月に創立150年を迎えます。

この大きな節目を意識し、今を生きる我々が“未来への責任を果たす”その思いで、この2期目は、「まちの魅力と経済を一段高みへ、その強い思いで行動を」をスローガンに掲げ、商工会議所活動に全力で取り組んでまいります。本年も引き続き、会員の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭所感

まちの魅力と経済を一段高みへ その強い思いで行動を

神戸商工会議所 会頭 川崎博也

